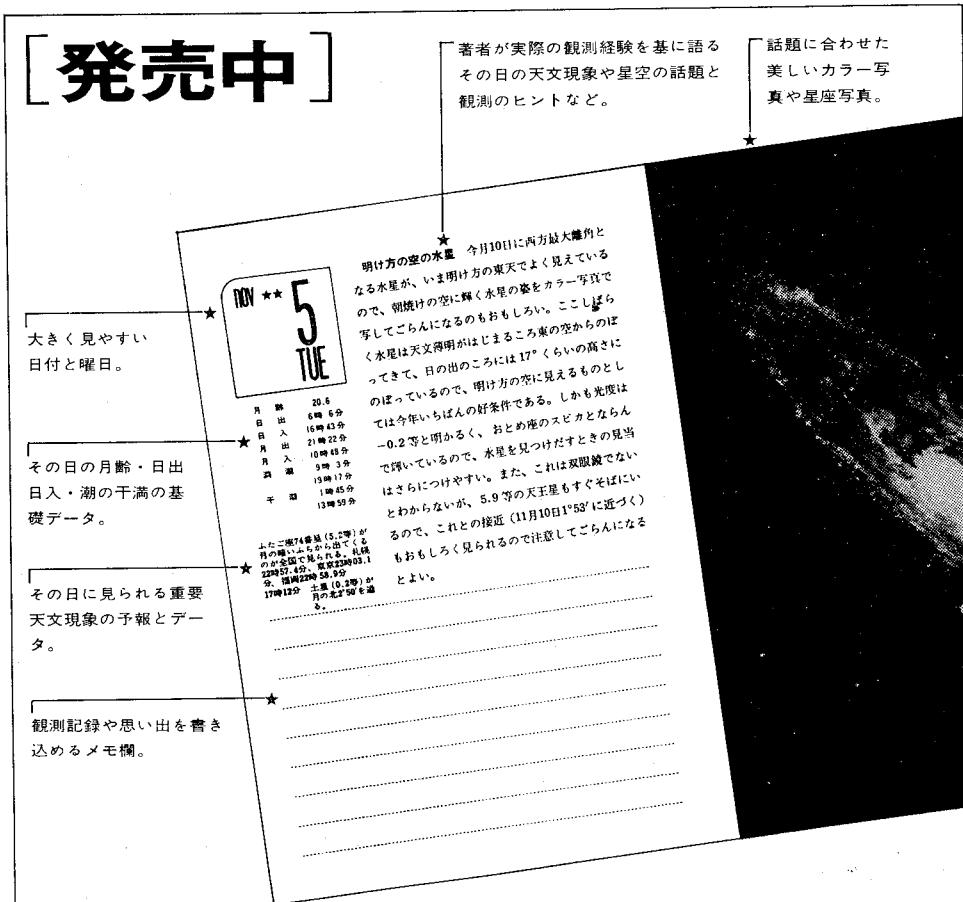


表紙写真説明: 京大観測班による赤外のフラッシュスペクトルで、左が第2接触で東側リム、右側3枚が第3接触で西側のリムである。時間は左上・左下・右下・右上の順に経過する。①第2接触8.9秒後で、彩層の高さは2500 km、分散は21Å/mm。②第2接触34.1秒後で、彩層

の高さ9500 km。③第3接触35.5秒前で、彩層の高さ9600 km、上方の強い連続光はプロミネンスによるもの。④第3接触11.5秒前で、彩層の高さ3100 km。⑤第3接触2.7秒前で、彩層の高さは730 kmである。アルバム、本文等の写真とフラッシュスペクトルの比較は大変興味深い。



珠玉のエッセイと写真で綴る星空の365日。1974年度重要天文現象の全データを集録。

星日記1974

村山定男著
藤井旭

定価880円
判型 B6判
本文408頁 カラー24頁

何月何日に日食があって、何月には火星が接近する……というめましい出来事は天文ファンなら頭に刻みつけて楽しみにしているものだが、こまかい現象や毎日のデータとなると、つい見落してしまうことがある。そこで、思いついたのが、この『星日記』である。1年間毎日毎日の日の出、日の入りといった基礎データから、その日に見られる天文現象や観測のヒントなどを入れ、空欄には読者の方が観察の感想やらメモを書きこんでくだされば、あとになってこのうえない思い出になり、また貴重な記録にもなるだろうというわけである。……著者序文より